

講義要綱

Syllabus

2024

27期生3年次

長崎県央看護学校 専門課程

はじめに

講義要綱(シラバス)とは、授業に関する基本的な情報をまとめた「授業概要の説明書」です。各年度のはじめに学生 みなさんに配布し、学習を進める際の手がかりとして活用されるよう編集されています。科目概要と到達目標、授業方法・授業計画に始まり、教科書や参考文献など、より理解を深めるための学習ができるように工夫されています。

また、成績評価の方法や履修上の留意点など、学習の評価と直結する内容も盛り込まれています。授業に出席する前には、各科目のシラバスを必ず読み込んで当日に備えるようにしてください。

それぞれの授業科目には、その科目の学修に必要と考えられる時間数を基準にして「単位」が定められています。授業、予習や準備、復習や課題を達成する時間などを総合して45時間となるとき、これを1単位とすることを標準としています。授業科目の単位数は授業を受けるだけでなく、予習や復習等が必要であることを前提に定められていることを銘記しておきましょう。

目次

教育理念・教育目的・教育目標	P1
教育課程	P2
講義要綱(シラバス)の見方.....	P3～4
授業科目と評価区分及び学年別単位数・講師一覧・・・	P5～6
基礎分野	
専門基礎分野	P7～8
統合分野	
看護の統合と実践	P9～12
看護管理	P10
災害看護と国際協力	P11
臨床看護の実際	P12

教育理念

本校における看護教育は、社会の変化・情勢に対応し、保健・医療・福祉の向上を目指して社会に貢献できる看護実践者を育成することである。

この考えに基づき、人々から信頼を得られる看護の専門的な知識・技術・態度を養い、生命の尊厳を基盤とした豊かな人間性を育成することを本校の責務とする。

教育の基本は、学生が主体的に学び、自己成長できるよう支援していくことである。

教育目的

看護師となるために必要な専門的知識・技術・態度を修得すると共に豊かな人間性を養い、保健・医療・福祉チームの一員として社会に貢献できる看護実践者を育成する。

教育目標

1. 生命の尊厳と人間尊重の理念に基づき、豊かな感性と調和のとれた人間性を養う。
2. 社会の変化に対応し得る基盤を養う。
3. 人々の健康上の課題に対応するため、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
4. 保健・医療・福祉制度と他職種の役割を理解し、チーム医療を実践するとともに看護師の責務と独自の役割を果たすための基礎的能力を養う。
5. 看護師として自己成長できる基盤を養う。

期待される卒業生像

1. 感性豊かな人間性と専門職業人としての倫理観を持ち、生命の尊厳と個々の人間を尊重することができる。
2. あらゆる健康レベルにある対象を生活統合体として総合的にとらえ、安全な看護実践に必要な専門的知識・技術・態度が身についている。
3. 社会の変化(医療の高度化・専門化、少子高齢化、疾病構造の変化)に対応できる基盤が身についている。
4. 判断能力、応用力、創造力、問題解決能力、説明能力(指導)が身につき、科学的思考に基づいた看護を実践できる。
5. 保健・医療・福祉制度を総合的に理解し、それらを調整する基盤が身についている。
6. 自己の看護観を持つ事ができる。
7. 看護への探究心を持ち自己研鑽につとめ、主体的に学習する態度が身についている。
8. 共感的態度を身につけ、調和のとれた人間関係を形成できる。

教育課程構造図

本校の教育理念である「社会に貢献できる看護実践者の育成」を目指して、「基礎分野」、「専門基礎分野」、「専門分野Ⅰ」、「専門分野Ⅱ」、「統合分野」の5分野で教育課程を構築した。

基礎分野は、人間を幅広く理解し、科学的思考力を高め、感性を磨き、幅広いものの見方、考え方から判断と行動を促す内容とし、専門基礎分野及び専門分野を学ぶ土台とする。

専門基礎分野は、「人体の構造と機能」、「疾病の成り立ちと回復の促進」、「健康支援と社会保障制度」について学び、看護における観察力、判断力、人々が社会資源を活用できる為の調整する能力を学ぶ土台とする。

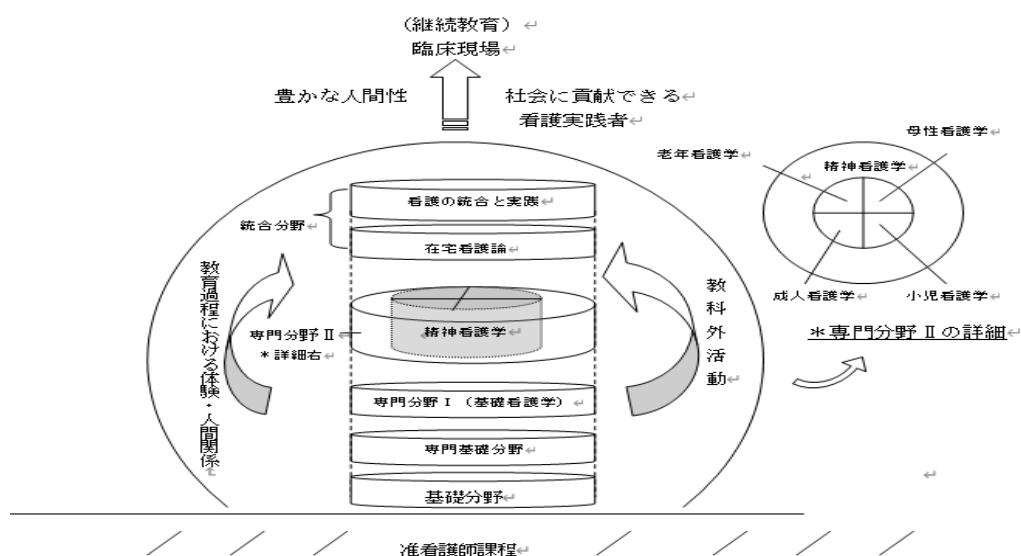
専門分野Ⅰは、基礎看護学であり、全ての看護学に共通の基礎的理論や技術を学び、専門分野Ⅱや統合分野の土台となる。

専門分野Ⅱは、「母性看護学」「小児看護学」「成人看護学」「老年看護学」「精神看護学」の5つの看護学で構成される。看護は、人間の誕生から死に至る人の一生に関わるものである。人間の成長発達、加齢に伴う変化過程であり、常に連続体である。「母性看護学」「小児看護学」「成人看護学」「老年看護学」においては、成長発達に応じた各期の特徴とその健康上の課題を明らかにし、その多様なニーズや特徴を踏まえながら、対象に応じた看護が実践できる基礎的能力を育成する。「精神看護学」は、人間のあらゆる発達段階に関わり、心の健康と健康問題について学ぶ。

統合分野は、「在宅看護論」と「看護の統合と実践」の2科目で構成する。「在宅看護論」は、全てのライフサイクルの対象特性を踏まえ、また、専門分野Ⅰ・Ⅱで既習した知識・技術を基に、地域で生活する療養者とその家族に対する看護を学ぶ。「看護の統合と実践」は、基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱで学習した知識・技術を統合し、卒業後、臨床現場でスムーズに適応できることを目的に、臨床の実務に近い看護内容や方法を学ぶ分野とする。

また、これらの教育内容と共に、教育の過程における様々な経験、人間関係からも学びを深めていく。その積み重ねにより、豊かな人間性を育み、社会に貢献できる看護実践者として、常に自己成長できる基礎を養う。

本校は、2年課程であるため、准看護師課程の積み上げ教育を意識し学びを深める。



1. 講義要綱(シラバス)の見方

1) 授業科目と評価区分及び学年別単位数・講師一覧

本年度の本校で学ぶ全ての「授業科目」「単位数」「時間数」「授業科目の配当学年」「担当する講師及び担当時間」、「試験の担当講師」等について記載しています。 授業科目の担当講師の確認や試験内容、授業時間の確認などに利用して下さい。

授業科目の中には、1つの授業科目を複数の講師で担当する科目や1つの授業科目の単位認定を複数の試験で行う授業科目もあります。また、単位認定試験の受験資格も授業科目により異なるものもあります。特に「担当講師の試験組み合わせ」の項目の*マークのついている授業科目は、履修条件に注意が必要です。各授業科目の講義要綱(シラバス)と照らし合わせて、確実に確認しておきましょう。また、履修規程の「Ⅱ. 学科単位修得」の項と関連させて参照してください。

2) 各授業科目のシラバスの解説

各項目には、次の内容が、書かれています。学習を進める際の参考にしてください。

①科目名

授業科目の名称です。

②担当講師

今年度、科目を担当する講師名です。

③単位数(時間数)

授業科目の単位数と()内には、授業科目の総時間数が書かれています。
複数の担当講師の場合、各々の時間を明記しています。

④配当年次

配当年次とは、授業が行われる学年を表しています。その学年にならないとその授業科目を受けることはできません。但し、自分の年次(学年)以下で開講している授業科目については、履修することができます。

⑤科目の概要

この授業科目で学ぶ内容の概要です。当該科目の領域や社会における有用性を説明すると共に、既習内容との関係を配慮して、関連科目との体系的・構造的関係を記載しています。

⑥到達目標

受講後に期待される姿です。理解して欲しい知識や修得して欲しい技術、身につけて欲しい態度や能力などを具体的に記載しています。

⑦授業方法

講義や演習など授業の形態です。

⑧授業計画

毎回の授業テーマや授業内容が記載されています。

⑨成績評価の方法

単位認定のためにどのように成績を評価するのかを記載しています。評価の具体的な方法と配点基準です。単位認定試験や課題の提出状況、出席状況、授業態度等、評価方法は、各授業科目により異なります。

⑩履修上の注意

この授業科目を履修する上で必要となる注意事項です。

⑪一言アドバイス

学習する上での留意点や発展的に学習を進めるにあたってのポイントが記載されています。

⑫教科書

この授業科目で使用する教科書です。

⑬参考文献

学習を深める際に参考にするとよい文献です。

授業科目と評価区分及び学年別単位数・講師一覧（令和6年度 27期生旧カリ3年生用）

教育内容		授業科目		単位	時間	3年	評価区分	1試験時間	担当時間	講師名
基礎分野	人間と生活・社会の理解 科学的思考の基盤	情報科学		1	30		1試験	30	30	
		運動生理学		1	30		1試験	30	30	
		論理的思考と表現		1	15		1試験	15	15	
		哲学		1	30		1試験	30	30	
		心理学		1	30		1試験	30	30	
		人間関係論		1	30		1試験	30	30	
		家族社会学		1	15		1試験	15	15	
		医療英語		1	30		1試験	30	30	
専門基礎分野	人体の構造と機能	形態機能学 I		1	30		1試験	30	10 4 6 10	
		形態機能学 II		1	30		1試験	30	30	
	栄養生化学	生化学	1	30		1試験*	20	20		
		栄養学	1	30		1試験*	10	10		
	疾病と治療論 I	呼吸器	1	30		1試験*	14	14		
		消化器			1試験*	16	12			
		消化器(手術療法)				4				
	疾病と治療論 II	血液造血器	1	30		1試験*	10	10		
		循環器			1試験*	20	16 4			
	疾病と治療論 III	脳神経	1	30		1試験*	16	6 10		
		運動器			1試験*	14	14			
	疾病と治療論 IV	腎・泌尿器	1	30		1試験*	14	14		
		女性生殖器			1試験*	10	8			
		乳腺			R	2				
		自己免疫			1試験*	6	6			
	疾病と治療論 V	内分泌・代謝	1	30		1試験*	12	12		
		耳鼻咽喉			1試験*	6	6			
		眼			1試験*	6	6			
		皮膚			1試験*	6	6			
	薬理学		1	30		1試験	30	30		
リハビリテーション医療		1	15		1試験	15	15			
微生物学		1	30		1試験	30	30			
	保健医療論			1	15		1試験	15	9 4	
		R			2					
	社会福祉	1	30	1	1試験	30	30	中野伸彦		
	関係法	1	15		1試験	15	15			
公衆衛生学		1	15		1試験	15	15			
専門分野 I	基礎看護学	看護学概論		1	30		1試験	30	10 20	
		共通基本技術		1	45		1試験	45	10 20 15	
		日常生活援助技術		1	45		1試験	45	33 12	
		診療補助技術		1	45		1試験	45	4 3 28 10	
		臨床看護総論		1	30		1試験	30	30	
		看護研究		1	30		1試験	30	10 20	

専門分野II	成人看護学	成人看護学概論		1	15		1試験	15	15		
		成人臨床看護総論		1	30		1試験	30	30		
		成人臨床看護の実際I	循環器障害	1	30			1試験*	16	8	
			消化・吸収障害							8	
			血液・造血器障害							6	
			呼吸器障害							8	
		成人臨床看護の実際II	内分泌・代謝障害	1	30			1試験*	16	8	
			腎機能障害							4	
			泌尿器機能障害							4	
			運動器障害							8	
		中枢神経障害				1試験*	14	6			
	老年看護学	老年看護学概論		1	30		1試験	30	30		
		老年看護援助論		1	30		1試験	30	30		
		老年期に特有な障害と看護		1	30		1試験	30	4	26	
	小児看護学	小児看護学概論		1	30		1試験	30	30		
		小児臨床看護総論		1	30		1試験	30	14	13	
		小児臨床看護の実際		1	30		1試験	30	3	8	
								2	2	18	
	母性看護学	母性看護学概論		1	30		1試験	30	30		
		周産期の正常な経過とハイリスク		1	30		1試験	30	14	16	
周産期にある人の看護		1	30		1試験	30	10	20			
精神看護学	精神看護学概論		1	30		1試験	30	30			
	精神障害の治療と看護		1	30		1試験	30	16	4		
	精神に障害をもつ人の生活と看護		1	30		1試験	30	10	14		
							2	14			
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論		1	30		1試験	30	30		
		在宅看護援助論		1	30		1試験	30	15	9	
		在宅療養者の状態別看護		1	30		1試験	30	6	8	
	看護の統合と実践	看護管理		1	15	1	1試験	14	2	10	* 吉田佳織
		医療安全		1	30		1試験	30	2	18	* 村山里栄子
		災害看護と国際協力		1	30	1	1試験	30	1	8	* 富山ルミ
		臨床看護の実際		1	45	1	1試験	45	2	2	* 園能寺貞子
								2	2	* 澤谷典子	
								31	8	* 山口真由美	
								2	8	* 山口奈津子	
							10	2	* 大宮弘司		
								2	* 浦美恵子		
								2	* 木下由紀子		
								10	* 渡邊令子		
									* 山口真由美		

※ 試験及び評定に関して、「履修規程」をよく参照すること。

※ *は、「履修規程」II. 学科単位修得【受験資格】及び【成績及び評価について】の項を参照すること。

※「R」はレポート提出がある科目。詳細はシラバスで確認すること。

專門基礎分野

科目名	社会福祉	担当講師	*中野 伸彦
単位数 (時間数)	1 (30)テスト含む	配当年次	3
科目の概要	本講は、社会保障制度や社会福祉制度の全体的な枠組みや各種のサービス内容および専門職員の役割等を理解することによって、医療・福祉分野におけるスタッフ間の連携や支援体制の構築をめざす。このため、現行の社会資源や援助技術の理解習得に最も力点を置くが、同時に医療・福祉分野における今後の課題や展望についても概観する。		
到達目標	1. 社会福祉の基本的な枠組みを理解する。 2. 社会保障制度の全体的な枠組みを理解する。 3. 社会資源の活用法と、医療と福祉との連携のあり方などを身につける。		
CP・DPとの関連	CP4. 健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し、科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。 DP1. 人間の生命と権利を尊重し、共感的で倫理的な態度を身につけている。 DP5. 看護師としての使命感を持ち、時代に応じた知識・技術を学び続けるための自己教育力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	社会福祉の基本的枠組み	講義
	2	①福祉とは何か ②三つのH ③専門性と一般性	
	3	社会福祉の歴史	講義
	4	①歴史的課題 ②古代～近代(慈善から社会事業へ) ③近代～現代(福祉国家から福祉社会へ、施設から在宅へ)	
	5	社会福祉の定義と概念	講義
	6	①定義 ②概念 ③社会福祉と社会保障 ④公的扶助と社会保険	
	7	社会保障制度	講義
	8	①所得保障 ②医療保障 ③介護保障	
	9	社会資源	講義
	10	①法律体系 ②福祉六法 ③精神保健福祉法 ④介護保険法	
	11	⑤障害者自立支援法 ⑥関連法	
	12	援助技術 ①専門職の役割	講義
	13	②ケースワーク ③グループワーク ④コミュニティワーク	
	14	これからの医療と福祉 ①先進国に学ぶ ②医療と福祉の連携	講義
15	単位認定試験	試験	
成績評価	小レポートの課題(10%) 単位認定試験(90%)		
履修上の アドバイス	認定試験だけでなく、小レポートの課題なども評価の対象とするので、未提出とならないよう注意しておくこと。また、福祉は、単に法律や制度などの知識の修得にとどまらず、支える側の人間観や人権意識などを問い直す視点も重要なテーマとなっている。自分自身の生き方や人(患者さん)の見方などを問い直したり、考えたりする視点なども関連づけながら講義に臨んでほしい。		
テキスト	「系統看護学講座 専門基礎分野」 「社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度[3]」 医学書院 ※適宜、資料やプリント等を配布する		
参考文献	・厚生省の指標 臨時増刊「国民の福祉の動向」(厚生統計協会) ・厚生労働省編「厚生労働白書」(ぎょうせい)		

統合分野

看護の統合と実践

科目名	看護管理	担当講師	* 吉田佳織 : 10時間 * 村山里栄子: 2時間 * 富山 ルミ : 2時間 * 圓能寺貞子 : 1時間
単位数 (時間数)	1(15)	配当年次	3
科目の概要	看護管理は、新しいヘルスケアシステムを創造し、チームや組織、システムを動かしていく活動である。看護職同士の協働、他職種との連携、看護の対象者を取り巻くあらゆる資源(人・モノ・金・情報・時間など)を有効活用する「仕組み」が看護管理である。看護管理者だけでなく、仕事に対し何らかの責任を負うすべての看護職者が学ぶべき科目である。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理の目的・目標が理解できる。 2. 看護管理の対象(人・モノ・金・情報・時間など)が理解できる。 3. 看護管理に必要な知識・技術を学ぶ。 4. 他職種との連携・協働について理解する。 5. 看護を取り巻く社会の動向から諸制度、労働環境について学ぶ。 		
CP・DPとの関連	CP7. 看護について探求心を持ち、継続して学ぶ姿勢を養う。 DP5. 看護師としての使命感を持ち、時代に応じた知識・技術を学び続けるための自己教育力を身につけている。 DP6. 変化を恐れず、新しい問題へ対応するために創意工夫できる力を身につけている。		
授業計画	回数	学習内容	方法
	1	看護管理の基礎① 管理とは、看護管理部門の基本的役割	講義
	2	看護管理の基礎② 看護単位の看護管理、看護管理の課題	講義
	3	看護に関する諸制度 看護活動と保健師助産師看護師法	講義
	4	看護行政と看護活動 看護合成の組織、診療報酬体系と看護	講義
	5	看護師の労働環境・労働条件の課題と整備	講義
	6	医療安全管理の実際 医療安全管理者の役割 医療事故対策の実際 (村山)	講義
	7	人材のマネジメント キャリアとキャリア形成 (富山)	講義
	8	まとめ (圓能寺)	講義
成績評価の方法	単位認定試験 100% 課題レポートの提出(テーマは講義開始後に知らせます)		
履修上のアドバイス	F. ナイチンゲールの「看護覚え書」第3章:小管理を改めて読み返すと、マネジメントの本質を理解することができる。		
テキスト	「新体系看護学全書 看護管理 看護研究 看護制度」メヂカルフレンド社		
参考文献	適宜プリントを配布する。		

科目名	災害看護と国際協力	担当講師	*澤谷典子 : 2時間 *山口真由美: 18時間 *山口奈津子: 8時間 *大宮 弘司: 2時間
単位数 (時間数)	1(30)テスト含む	配当年次	3
科目の概要	国際社会における保健医療福祉の実情を知り、国際看護・国際協力に関わる機関や国際看護の基本理念について理解する。また、災害による社会や地域の人々の生活・健康への影響と災害に関する社会のしくみや対応について理解し、災害各期における人々の健康や生活ニーズ、被災者の特徴に合わせた看護活動を行うための基礎を学ぶ。		
到達目標	1. 災害の特徴, サイクルについて理解することができる。 2. 災害時における看護師の役割を理解することができる。 3. 国際社会における保健医療福祉の実情を知ることができる。 4. 国際協力に関わる機関や国際看護の基本理念について理解することができる。		
CP・DPとの関連	CP3. 専門職業人としての倫理に基づいた看護が実践できるための基礎的能力を養う。 CP7. 看護について探求心を持ち、継続して学ぶ姿勢を養う。 DP3. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。		
授業計画	回数	学習内容	方法
	災害看護		
	1	災害看護の概念、災害の定義・災害サイクル・災害の分類	講義・演習
	2	災害医療・看護の特徴、災害の時期別にみた健康問題	講義・演習
	3	災害看護の実際	講義・演習
	4, 5	HUG(ハグ)	講義・演習
	6, 7, 8	心肺蘇生(救命講習)	講義・演習
	9	被災者特性に応じた看護、被災者と救援者に対する心のケア	講義・演習
	10	単位認定試験	
	国際協力		
	1	国際看護とは、国際看護の基本理念	講義・演習
	2	世界の健康問題の現状;地域格差と死因、国際看護活動の支援を必要とする対象	講義・演習
	3	異文化理解、海外における看護活動、国内の在日外国人への看護活動	講義・演習
	4	国際協力のしくみとそれに関わる機関	講義・演習
	5	国際看護活動の実際 (澤谷典子)	講義
成績評価の方法	単位認定試験(100%)		
履修上のアドバイス	世界の災害関連ニュースや国際的な看護活動、国内の災害状況について事前に調べ、講義を受けるようにしましょう。課題は提出期限を守りましょう。討議は、積極的に参加して、考える力をつけましょう。		
テキスト	「系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学」医学書院		
参考文献	いのちとこころを救う災害看護 学研, 災害看護学 メヂカルフレンド社		

科目名	臨床看護の実際	担当講師	* 渡邊令子 : 31 時間 * 山口真由美 : 10 時間 * 木下由紀子 : 2 時間 * 浦 美恵子 : 2 時間
単位数 (時間数)	1(45)テスト含む	配当年次	3
科目の概要	看護の現場は、決められた時間内に複数の対象へ看護サービスを提供することが求められ、ケアの優先度を判断し、安全性、効率性を考慮しながらチームの一員として動くことのできる実践能力が必要となる。本科目はそのような看護の現場への適応を目指す科目である。そのため臨床でよく遭遇する場면을提示し、課題を解決していく演習を行い、看護技術の総合的な評価を行う。また、これからの看護を見据え、最新のトピックスを取り入れながら、現場の課題への対応について考える授業を行う。		
到達目標	1.複数の患者を受け持ち、ケアの優先順位を考え1日の行動計画を立案することができる。 2.予期しない対象の反応や突発的な事態、時間の切迫等の臨床で起こる現象の中で、根拠をもとに優先順位を決定することができる。 3.患者に24時間看護を提供するための仕組みについて理解する。 4.専門職業人として最新知識・技術を自ら学び続ける姿勢を身につける。		
CP・DPとの関連	CP7. 看護について探求心を持ち、継続して学ぶ姿勢を養う。 DP5. 看護師としての使命感を持ち、時代に応じた知識・技術を学び続けるための自己教育力を身につけている。 DP6. 変化を恐れず、新しい問題へ対応するために創意工夫できる力を身につけている。		
授業計画	回数	学習内容	方法
	1	チーム医療と多職種連携 I ①	講義
	2	チーム医療と多職種連携 I ②NST の活動の実際と看護の役割	講義
	3	チーム医療と多職種連携 I ③医療連携室の概要と役割	演習
	4	チーム医療と多職種連携 I ④タスクシェア・タスクシフト	講義
	5	チーム医療と多職種連携 I ⑤チームワークとコミュニケーション	講義
	6	様々な状況下の判断① 優先順位の判断	講義・演習
	7～11	様々な状況下の判断② 実演・シミュレーションによる状況判断トレーニング	演習
	12	これからの医療の課題① 地域における地域保健活動	講義
	13	チーム医療の多職種連携 II ① 一日の業務の組み立て	講義
	14	チーム医療の多職種連携 II ②交代制勤務による看護提供	講義
	15～18	チーム医療の多職種連携 II ③他の医療職学生との合同授業	演習
	19	これからの医療課題 人生の最終段階における医療と看護(ACP)	講義・演習
	20～22	実技試験	実技試験
23	単位認定試験		
成績評価の方法	1. 演習記録・多重課題トレーニングレポート 2. 課題レポート3. 技術演習課題 4. 実技試験リフレクションレポート 5. 単位認定試験など評価の割合は講義中に説明します。		
履修上のアドバイス	主体的な学習や真剣な態度での実演が、学習の質を左右します。		
テキスト	「新体系看護学全書 統合分野 看護実践マネジメント/ 医療安全」メヂカルフレンド社		
参考文献	必要時提示します。		